



山科ともものり 山形の未来へ、アクション! 県政報告 Vol.5

発行日／平成25年3月吉日 発行／山科朝則事務所

山科朝則事務所 〒996-0033 新庄市下金沢町4番20号 TEL.0233-25-8778 FAX.0233-25-8777

3年連続の
豪雪を教訓に

「雪に強い地域づくり」を進めます!



今年も2月下旬には観測地点によっては積雪量が観測史上最高を更新するなど、3年連続で豪雪に見舞われました。私は「雪に強い地域づくり」をしっかりと進めていくことが、新庄・最上地域にとって、極めて重要なことだと考えます。特に、住宅が密集し、雪捨て場の少ない新庄市中心街において大きな効果を発揮する雪対策は、消流雪溝の活用です。

消流雪溝を効果的に活用していくためには、厳しい財政状況を踏まえつつも、県と新庄市が知恵を出し合い消流雪溝の整備を積極的に推進していく必要があります。また、水利権の問題はありますが、最上川から取水した国営新庄農業水利施設を活用した補水の拡充など慢性的に不足している水量の確保にも意を用いて対応していく必要があります。

また、行政によるハード面の整備などとともに、それを如何に効率的・効果的に活用できるかという点では、地域住民がお互い話し合っ知恵を出し合うことが大事であり、各地区内の共助体制を併せて整備しながら、官民連携による「協働除排雪システム」を作り上げていく必要があると考えます。

さらに、厄介者の雪を雪氷熱というパワーに変えて、雪の再生可能エネルギーを例えば地域農業に活かすなど、雪の持つパワーを活かし、雪で「まち」を元気にすることも考えていきたいと思ひます。

県では、新たに策定を進めた「雪対策行動計画」に基づき、総合的な雪対策の取り組みを進めております。特に、地域の実情に応じてきめ細かな雪対策を推進するため、市町村が希望する事業を支援する「雪対策総合交付金制度」を新たに創設しました。しかし、事業採択の運用に関する面や予算額など課題もありますので、市町村や県民の声に耳を傾け、今後の制度改善に活かしてまいります。

なお、雪氷防災研究センター新庄支所が、平成24年度中に廃止するという国の方針でしたが、この度、存続されることになりましたことは、県、市町村、関係機関など地域が一丸となった取り組みの成果であり、関係者の皆様に感謝を申し上げます。

農業用水を消流雪溝へ!

消流雪溝の整備

国営新庄農業水利施設を活用した補水の拡充



各地区内の共助体制を併せて整備

協働除排雪システム



雪の再生可能エネルギーを農業に活かす

雪氷熱エネルギーの活用

総合的な雪対策を 「山形県雪対策行動計画」 の策定

文教公安常任委員会県内現地調査(最上・庄内地域) 平成24年10月15日～17日



雪氷防災研究センター新庄支所では、雪に強い信号機等の開発・研究も行われています。



赤倉小学校には幼稚園が併設されており、幼小連携の取り組みが行われています。



全国初の機動隊庄内分駐隊。災害等発生時、人命救助率が高まると期待されます。



鶴岡中央高校の総合学科は、美術・デザイン・国際交流など5系列からなり、専門性に加え、広い視野をもつカリキュラムになっています。

- 最上町立赤倉小学校
- 舟形町中央公民館(「縄文の女神」の利活用について)
- 雪氷防災研究センター新庄支所
- 新庄警察署(検視についてなど)
- 鶴岡警察署(安全・安心なまちづくりの取り組み状況についてなど)
- 機動隊庄内分駐隊
- 県立山添高校
- 県立鶴岡中央高校(山形「スピークアウト」方式の取り組みについてなど)



雪氷防災研究センターでは、雪に強い信号機の開発などについて説明を受けました。近年の豪雪を考えるとセンターの重要性はますます高まっているといえます。また、小中学生の見学を受け入れているとのことでしたが、地域に高度な研究機関があることは、防災や産業振興のみならず、子ども達の教育環境としても重要だと改めて感じました。

山添高校では、「発達障害のある生徒への支援事業」について説明を受けました。県では、難関大学への進学率向上や海外留学支援等の施策を進めていますが、一方で、社会適応に困難を抱えた高校生への対応はまだ遅れている状況です。「生きにくさ」を抱えた生徒も、社会人として就職し生活できるような高校教育の取り組みが最上地域でも早期に必要なではないでしょうか。

皆様のご意見をお寄せください。 山科ともものりホームページ <http://www.yamashina.jp/>